

菅 拓斗

- ・3月11日は学校から帰る準備をしていました。帰りの会で先生からの話が終わった途端に巨大地震が起きました。津波が発生し家に帰ることができず、学校が避難所になったので、このままいることになりました。
- ・最初はみんなで避難していたのですが、家の人を迎えに来て友人たちが、だんだんと避難所からいなくなり寂しくなっていました。このような中、家族の安否がわからず、残された妹と二人でこの先どのように生きていくかを考えながら、長男としての覚悟を決めていました。
- ・2週間後、父と母が学校に迎えに来て家族の無事が確認でき、ホッと胸をなでおろしたのを覚えています。
- ・この震災で失ったものもたくさんありましたが、それを上回る大きなものに僕は出会うことができました。それは「絆」です。先生、先輩、友人、地域の人々、家族などすべての大切な人たちが、かけがえのないもので繋がっていると僕は思いました。
- ・それを踏まえて僕にできることは震災で起こった出来事を伝えていくことだと思いました。苦しいことも多いですが、楽しいこともたくさんありました。そのことをこのような式典や様々な場所で、同年代や僕よりも若い世代に伝えていきたいと思います。